

## 教科「情報」を取り巻く課題

富山県教育委員会学校教育課  
指導主事 片山 喜美

情報化が高度に進展した社会で、ICT活用能力を身につけることはとても大切なことになりました。ワープロ文書に図や写真も取り入れ、表計算ソフトで数値データを分析し、グラフを作成し、プレゼンテーションソフトで分かり易い発表を行う等のことが様々なところで必要とされています。そのため、ICT機器の操作を教科「情報」の時間に積極的に行って、生徒のICT活用能力の向上を図っている学校が多いものと思います。また、教科「情報」の時間に限らず、色々な場面でICTを活用する学習活動が行われています。例えば、課題研究や総合的な学習の時間における情報収集、報告書作成、発表の過程で、生徒たちはICT活用能力を大きく向上させています。

さて、コンピュータを使用する学習活動では、生徒のスキル格差が問題であると指摘されています。中学校までの学習や、一般家庭へのコンピュータと高速回線の普及等から、生徒の平均的なスキルは高くなり、中には高度な操作技術を持つ生徒さえいますが、一方では、あまりコンピュータに慣れ親しんでいない生徒も結構いるものと思います。そのため、生徒の実態を適確に捉えること、ICT活用能力を向上させる効果的な方法については各学校の実態に応じて工夫すること、クラス内の生徒のスキル格差に対応した授業を組み立てていくことが課題となっています。

インターネットが普及して、確かに便利な社会になりました。しかし、大変な危険と背中合わせだという現実もあります。目の前のスクリーンは世界中とネットで繋がり、自分の部屋にいながら、ふとした不注意から生徒たちが「危険地帯」に迷い込んでしまうことがあります。安易な考えや知識不足から、罪の意識無しに、例えば音楽や映像などの著作権を侵害してしまうこともあります。生徒たちは被害者にも加害者にもなり得ます。警察庁のまとめによると、2006年度のサイバー犯罪が前年度に比べて40%増加し、子どもの被害が急増し、また、10代の容疑者が全体の3割を占めるようになっています。本県でも、高等学校の生徒用コンピュータでWinnyが発見されたことから、学校における情報漏えい防止の徹底をお願いしております。このような状況から、教科「情報」の授業では、十分な時間を取って、情報社会へ参画するために必要な知識、態度について教えていく必要があります。

教科「情報」を取り巻くICT活用能力の向上、生徒のスキル格差、情報社会への参画等に関わる課題について、情報部会の先生方は日頃から強く意識され、色々な取り組みをしていただいております。その実践研究の発表や協議の場として、情報部会が果たしている役割には大きなものがあります。この研究紀要に寄せられた実践研究の報告には、他の学校でも工夫して活用していける内容が多く含まれています。また、教科「情報」の定期考査問題研究や指導方法に関する協議記録も、是非参考にさせていただき、各学校の教科指導や評価に生かしてほしいと思います。研究紀要に報告等を寄せられた先生方や情報部会の役員の先生方には多大な労を執っていただき、感謝申し上げます。

今後とも、情報部会で熱心な研究を継続していただき、指導方法や評価方法が蓄積され共有されることによって、本県の教科「情報」の教育がさらに充実していくことを期待しますとともに貴部会の一層のご発展をお祈りします。